様式第2号(第4条関係)

豊明市行政評価制度	「車怒車業」	評価票
9 PJ 111 1 LLX 8T IIII M1177	· Ŧ/JŦX ·	可叫玩

一郎車殺車要	22 当市25 市兴	独計表表
(一般事務事業)	経常事務事業	建設事務事業

	第5次	欠行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
7	有無	

1 事務事業の概要

1 - 1事務事業の 名称		普通救命講習会等事業(主要事業)									
1 - 2担当	部	部 消防本部 課 又は施設 消防署 水急第3係 評価票作成者 救急第3担当係長 鈴木 孝									
1 - 3 総合計画における施策の体系	節		活環境		基本施策	消防・救急			コード	1 3 2	
	빖	「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」				単位施策(中)	救急体制の充実			コード	1 3 2 3
	項	生活安全・安心				単位施策(小)	普通救命	命講習会等の充実		コード	1 3 2 3 2
1 - 4事務事業の目的の精査	対象と 対象の数								急手当の普及啓発活		
1 - 5 事務事業の 内容											

2 事務事業実施の状況

事務事業実施の状況	τ											
2 - 1事務事業の		事務事業実施	もにあたって心がけた	改善の取組み		の事務事業がおかれ				- ズの認識		
実施における基本認識	平成18年度	市民に対し救命手 説明よりも体験学習 る。	当の認識を深めさせ 習型を取り入れ、成果	ることに主眼を置き の向上を主としてい	救急手当の関心が 習の開催にあたり通 えると人件費の負担	常業務内の人員、非	閉催回数が増加し、講 番者による対応を考			「報道されるにつれ、 ている現状を見ると、		
	平成19年度	パワーポイントを ションを主体とした	∈使用し座学の時間を Ξ講習内容とした。	縮小。シミュレー		の方々と協働して講	立し、講習に当って 習を実施し、非番者 る。	せられている。また		ミが当市においても発 韓習(24時間)も各事 引える。		
	平成20年度											
	平成21年度											
	平成22年度											
	平成23年度											
	平成24年度											
	平成25年度											
	平成26年度											
	平成27年度											
2 - 2総合計画に		事務事	事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)		指標の説明				
おける単位施策成果指標	普通救命詞	講習会等受講者数 (<i>、</i>	人)		2,700(人)	2,950(人)	AED(自動体外式除細動器)の普及に伴い、AED取扱いを含めた救急講習を推進することにより、現状値に毎年50人程度の増加を目標とした。				進することによ	
2 - 3成果指標に		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
係る活動実績とコ ストの推移(アウ	活動実績 a(単位)	112回(3,870人)	127回(2,989人)									
トプット分析)	直接事業費 b(千円)	230	198									
	人件費 c(千円)	2,178	2,989									
	合計コストd (b + c) (千円)	2,408	3,187									
	単位コスト d / a (千円)	講習会 1 回当たり 21	講習会 1 回当たり 25	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	
アウトプット実績 ((活動数値) (の補足説明 →	活動宝精け F級·	並通 ,	5.6回,一般救急講習	271同計127同(2	98911					

2 - 4成果指標に		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
対応する実績と達成度の推移	指標対応実 績(単位)	3,870(人)	2,989(人)								
	後期目標値 に対する達 成度(%)	131.2(%)	101.3(%)								

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
(アウトカム自己分 単年度 析) 担当課評価	Α	А								
	3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 単年度	3 - 1 評価結果 平成18年度 (アウトカム自己分単年度 A	3 - 1 評価結果 平成18年度 平成19年度 (アウトカム自己分単年度 A	3 - 1 評価結果 平成18年度 平成19年度 平成20年度 (アウトカム自己分単年度 A	3 - 1 評価結果 平成 1 8 年度 平成 1 9 年度 平成 2 0 年度 平成 2 1 年度 (アウトカム自己分 単年度 A	3 - 1 評価結果 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 (アウトカム自己分単年度 A A	3 - 1 評価結果 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 (アウトカム自己分単年度 A A	3 - 1 評価結果 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成23年度 平成24年度 (アウトカム自己分 単年度 A A A A	3 - 1 評価結果 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成23年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 (アウトカム自己分 単年度 A A A A	3 - 1 評価結果 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 (アウトカム自己分 単年度 A A A A

4 段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準

必要性(必要な事務事業であるか) 公共性(公が実施する意味があるか) 妥当性(ニーズに対して投入が適正か) 効率性(結果に至る活動に無駄はないか) 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか) 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	************************************	応急手当普及員を活用し、さらなる普及啓発活動に努める。	
	平成19年度	応急手当講習を受講するだけでなく、自らが指導者として 知識・技術の習得を望む市民が増加傾向にある。そういった	応急手当普及員ボランティアとの協働による救急講習の開催。各事業所、各地区における応急手当普及員による救急講習の啓蒙。	「応急手当普及員ボランティア」の会も設立され、会の方々と協働で講習を開催することにより、より一層の市民の理解と職員の知識と技術の向上が得られるものと思われる。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1総合評価の 結果		結果	審査会による改善方向の指示
結果	平成18年度	Α	継続して事業を進めること。
	平成19年度	А	継続して事業を進めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		